

体力・運動能力向上センター便り

宮城県教育委員会
体力・運動能力向上センター
9月11日 第1号

今年度から始まった体力・運動能力向上センター事業では、体力向上コーディネーターが県内の市町村教育委員会及び小中学校を訪問し、取組状況の確認や情報交換等を行っているところであり、訪問の際の日程調整や当日の御対応に御協力いただいていることに対し、改めて感謝申し上げます。

さて、コーディネーターの巡回訪問を通して各校の取組などが把握でき、好事例なども挙がってきております。また、地域センター員の連携事業につきましても順次報告がされておりますので、センター便りを通して、事例紹介等を行っていきたいと思います。今後の指導等に御活用いただければと思います。引き続き、当センターの事業に御協力願います。

好事例の紹介

【学校全体での取組（家庭や地域も含む）】



PTA 主体で徒歩通学を推奨（横断幕設置・徒歩の日の設定）

【教材教具の工夫（投げる編）】



バトンスローの設置

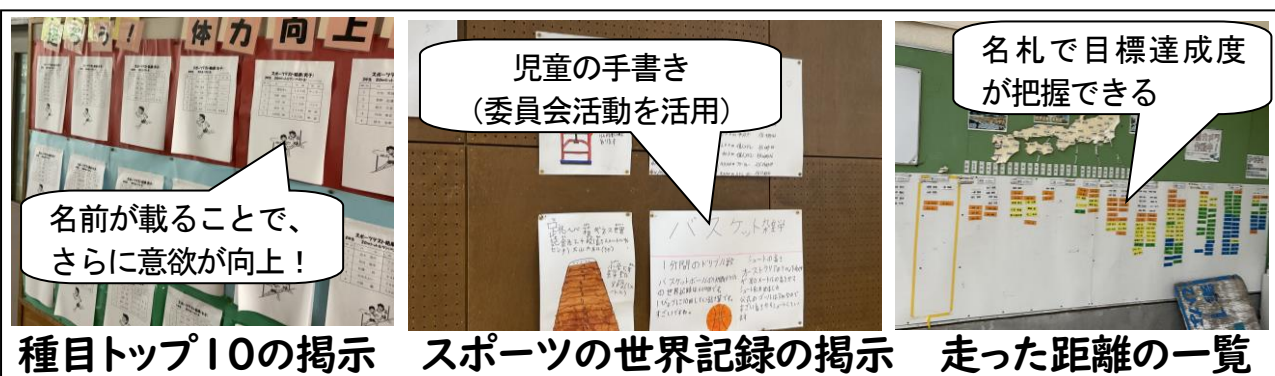


ミニゴールを利用した的の設置

【思わずやってみたくなる場のしかけ】



【掲示物などによる意識向上のしかけ】



【市町村教育委員会単位の取組事例】

【幼小の連携の強化】

幼稚園の段階から外遊びを積極的に進め、幼児期における運動機会の創出に取り組んでいる。運動の楽しさを味わい、意識が高まることで、小学校でも自然と運動する習慣が身に付いている。そうした児童の増加が、体力の向上につながっており、体力・運動能力調査の結果も全国を上回っている。

【メディアに触れる時間のコントロール】

市の取組として「でめこん」（デジタルメディアコントロールチャレンジ）を行っている。運動だけでなく、ゲームなどのデジタルメディアの使用時間についても目標を掲げ取組んでいる。小中学校の児童生徒の代表が話し合って目標を決めており、子供たちの考えを生かしている点がポイント。



体力向上コーディネーターより



- ・ 県内のほとんどの小中学校が1回目の訪問を終えており、10月からは2回目の訪問が始まります。日程調整等で、各校の先生方にはお手数をお掛けしますが、よろしくお願いいたします。
- ・ 2回目の訪問では、各校の取組について、その後の様子を伺ったり、実際の授業の様子を参観したりしたいと思います。また、具体的な取組の手立てについても、こちらから紹介、提示したいと考えております。各校の課題となっている部分にポイントを当てて情報提供したいと思いますので、児童生徒の実態に合わせて参考にして、取組につなげていただければと思います。